

製品安全データシート

作成 2009年 4月 1日
改訂 2013年 9月 20日

1. 化学物質等および会社情報

製品名 : コンパウンド SEC-KL
 会社名 : 富士技研工業株式会社
 住 所 : 埼玉県戸田市本町4-2-16
 担当部門 : 品質管理部
 電話番号 : 048-434-6401 F A X 番号 048-434-6404
 緊急連絡先 : 富士技研工業株式会社 戸田工場 電話 048-299-5781

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

爆発物	分類対象外	自然発火性液体	区分外
可燃性／引火性ガス	分類対象外	自然発火性固体	分類対象外
エアゾール	分類対象外	自己発熱性化学品	分類対象外
支燃性／酸化性ガス	分類対象外	水反応可燃性化学品	分類対象外
高压ガス	分類対象外	酸化性液体	分類できない
引火性液体	区分外	酸化性固体	分類対象外
可燃性固体	分類対象外	有機過酸化物	分類対象外
自己反応性化学品	分類できない	金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分5	生殖細胞変異原性	分類できない
急性毒性（経皮）	分類できない	発がん性	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類できない	生殖毒性	分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない	特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	区分1（肝臓、中枢神経系、腎臓、全身毒性）
急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外		
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない		
皮膚腐食性／刺激性	区分2	特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	区分2（肝臓、腎臓、血液、中枢神経系、血管、脾臓）
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分1		
呼吸器感作性	分類できない		
皮膚感作性	区分外	吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性（急性）	区分2	水生環境有害性（慢性）	区分外
-------------	-----	-------------	-----

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報 :

- ・ 飲み込むと有害のおそれ
- ・ 皮膚刺激
- ・ 重篤な眼の損傷
- ・ 臓器（肝臓、中枢神経系、腎臓、全身毒性）の障害
- ・ 長期にわたる、または反復暴露による臓器（肝臓、腎臓、血液、中枢神経系、血管、脾臓）の障害のおそれ
- ・ 水生生物に毒性

注意書き :

【安全対策】

- ・ 取扱い後、手をよく洗うこと。保護手袋を着用すること。
- ・ 保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ 環境への放出を避けること。

【応急措置】

- ・ 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- ・ 皮膚に付いた場合：多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 目に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

【保管】

- ・ 施錠して保管すること。

【廃棄】

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成および成分情報

単一製品,混合物の区別 : 混合物

化学名（又は一般名） : 非イオン界面活性剤 2-プロパノール 酒石酸ナトリウムカリウム四水和物

成分及び含量 : 30～45% 2.0% 4.5%

化学特性（化学式又は構造式） : $\text{RCON}(\text{C}_2\text{H}_4\text{OH})_2 \cdot \text{NH}(\text{C}_2\text{H}_4\text{OH})_2$ $\text{C}_3\text{H}_8\text{O}$ $\text{C}_4\text{H}_4\text{KNaO}_6 \cdot 4\text{H}_2\text{O}$

(R=ヤシアルキル基)

官報告示整理番号（化審法）	：	2-2503 2-827 8-311	2-207	9-530
C A S No.	：	—	67-63-0	6381-59-5
TSCA 登録の有無	：	あり	あり	
EINECS No.	：	—	200-661-7	

4. 応急措置

吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：多量の水及び石鹼で洗い流す。症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。

眼に入った場合：多量の水で15分間以上洗い流した後、医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合：水で口の中を洗浄し、コップ1～2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。

応急処置をする者の保護：救護者は防毒マスク、ゴーグル、ゴム手袋等の適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤：粉末消火剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水。

使ってはならない消火剤：棒状の水。

特有の危険有害性：火災により、刺激性ガスまたは有毒ガスが生成されることがあるので、必ず保護具を着用し、消火作業の際には煙の吸入を避ける。

特有の消火方法：火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備などに散水して冷却する。消火のため放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な処置を行う。

消火を行う者の保護：消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項：作業時には保護眼鏡、保護手袋等の保護具を必ず着用する。風下の人を退避させる。漏出した場所周辺にロープを張り、関係者以外の立ち入りを禁止する。必要に応じた換気を確保する。

環境に対する注意事項：公共用水域に流さないよう注意する。

除去方法：少量の場合、吸着剤（おがくず、土、砂、ウェス等）で吸着させ取り除いた後、残りは河川、用水路に流さないように水で洗い流す。多量の場合、付近への流出拡大防止のため、周囲を土砂等で囲って流出を防止し、ドラム等に回収する。大部分を回収した後、河川、用水路に流さないように水で洗い流す。

二次災害の防止策：火花の発生しない道具を使用する。床に濡れた状態で放置すると滑

りやすく、スリップ事故の原因となるため注意する。貯蔵・取扱いの場所の床面は、地下浸透防止ができる材質とする。また、床面等、ひび割れのないように管理する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い：

技術的対策

- ・ 取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
- ・ 接触、吸入を防ぐため適切な保護具（保護衣、安全ゴーグル、防毒マスク、ゴム手袋、ゴム長靴）を着用する。

局所排気・全体換気

- ・ 作業場は必要に応じて換気を行う。

注意事項

- ・ 眼への接触を避ける。火気厳禁。

安全取扱い注意事項

- ・ 強力な酸化性物質と接触させない。
- ・ 容器を転倒させ、衝撃を加え、又は引きずる等の粗暴な取り扱いをしない。

保管：

技術的対策

- ・ 密閉容器に入れ、直接日光や雨水を避けて涼しくて換気の良い場所（冷暗所等）に貯蔵する。
- ・ 火気を近づけないようにする。

適切な保管条件

- ・ 密封して換気の良い場所に保管。直射日光を避ける。
- ・ 酸化性物質、酸性物質から離して貯蔵する。

安全な容器包装材料

- ・ 製品使用容器に準ずる。

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度：	非イオン界面活性剤	2-プロパノール	酒石酸ナトリウムカリウム四水和物
	—	作業環境評価基準 200 ppm	設定されていない
許容濃度：			
ACGIH	—	STEL 400ppm A4	設定されていない
	TWA 2mg/m ³	TWA 200ppm A4	
日本産業衛生学会	：設定されていない	400ppm	設定されていない
		980mg/m ³	

設備対策：蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気を設置。取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

保護具：保護衣、安全ゴーグル、防毒マスク、ゴム手袋、ゴム長靴

9. 物理的および化学的性質

外観等：薄褐色 粘調度液体

沸点：データなし

比重：データなし

臭気：なし

蒸気圧：データなし

10. 安定性および反応性

安定性：通常条件で安定である。

反応性：酸化剤と接触すると反応することがある。

避けるべき条件：日光、熱

混触危険物質：酸化剤

危険有害な分解生成物：一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性：

非イオン界面活性剤	2-ブ°ロバ°ノール	酒石酸ナトリウムカリウム四水和物
LD ₅₀ (経口 ラット) 2,700mg/kg	LD ₅₀ (経口 ラット) 3,437mg/kg(計算値)	LD ₅₀ (経口 マウス) 4,360mg/kg
(経口 マウス) 3,300mg/kg	(経口 マウス) 3,600mg/kg	
(経口 モルモット) 2,000mg/kg	LC ₅₀ (吸入 ラット) 16,000ppm/8H	
(経口 ウサギ) 2,200mg/kg	LCL ₀ (吸入 マウス) 12,800ppm/3H	
(経皮 モルモット) 11,900 μL/kg	LD ₅₀ (経皮 ウサギ) 4,059mg/kg	
(経皮 モルモット) 11,900 μL/kg		
(経皮 ウサギ) 7,640 μL/kg		

皮膚腐食性／刺激性：

非イオン界面活性剤

皮膚を刺激する。

ウサギで刺激性の程度は重度から軽度まで幅があるものの、皮膚刺激性が認められており (ACGIH (2001)、PATTY (5th,2001))、ヒトにおいては軽度から中程度の刺激性の記載がある。(HSDB (2005))

目に対する重篤な損傷性／刺激性：

非イオン界面活性剤

ウサギで重度の刺激性が記載され (ACGIH (2001)、PATTY (5th,2001))、ヒトでは発赤、痛み、重度の熱傷および腐食性を示すと記載。(ICSC (J) (2002))

2-ブ°ロバ°ノール

眼に対して強い刺激性がある。

呼吸器感作性又は皮膚感作性：

非イオン界面活性剤

ヒトにおけるパッチテストにおいて皮膚感作性が認められなかった。

生殖細胞変異原性：

2-ブ^oロハ^oノール

SIDS (1997) の in vivo でのマウスの骨髄細胞を用いた小核試験で陰性。

発がん性：

非イオン界面活性剤

IARC で 3 に分類。(IARC (2000))

2-ブ^oロハ^oノール

IARC (Access on Oct 2005) でグループ 3、ACGIH (2003) で A4 に分類。

特定標的臓器／全身毒性 (単回暴露)：

非イオン界面活性剤

麻酔作用、肝障害

2-ブ^oロハ^oノール

中枢神経系、腎臓、全身毒性の障害

呼吸器への刺激のおそれ

特定標的臓器／全身毒性 (反復暴露)：

非イオン界面活性剤

濃度または暴露の程度によるが眼に長時間又は繰り返し接触した場合、角膜障害
または結膜炎を引き起こす恐れがある。

ヒトでは肝臓及び腎臓に影響を及ぼすことが記載されている。(ICSC (J) (2002))

2-ブ^oロハ^oノール

長期または反復暴露による血管、肝臓、脾臓の障害のおそれ

吸引性呼吸器有害性：

2-ブ^oロハ^oノール

飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ

1 2. 環境影響情報

生態毒性

非イオン界面活性剤

魚毒性 : (シ^oブ^oヘット^oミ^oノ^o) LC₅₀ = >540,000 μg/L/96Hr

(メ^oカ) LC₅₀ = 13.8mg/L/24Hr

(ミ^oシ^oノ^oコ) LC₅₀ = 2,640 μg/L/48Hr

(珪藻植物) EC₅₀ = 103,000 μg/L/96Hr

土壤中の移動性：土壤環境における移動性は高いと推定される。

残留性/分解性：非イオン界面活性剤

①活性汚泥濃度：30ppm、被験物濃度：100ppm、試験期間：2週間、
分解率：62% (BOD)、N,N-ビス (ヒ^oドロキシ^oエチル) 脂肪酸アミ^o (脂肪酸 C
= 6~18)：分解性が良好と判断される物質

②活性汚泥濃度：30ppm、被験物濃度：100ppm、試験期間：3週間、

	分解率：51% (BOD)、分解性が良好と判断される物質
BOD	: 800ppm (試験濃度 0.1%のとき)
COD	: 4,200ppm (試験濃度 0.1%のとき)
生態蓄積性	: 本品のデータはないが、物性 (水に可溶) より BFC (生体蓄積性) の値は低いと推定され、水棲生物に対する蓄積性はない又は低いと推定される。
生態毒性 (水生生物毒性)	
非イオン界面活性剤	
魚毒性	: (シブヘットミノ) LC ₅₀ (96H) > 540,000 μg/L
その他	: (メダカ) LC ₅₀ (24H) 13.8mg/L (ミジンコ) LC ₅₀ (48H) 2,640 μg/L (珪藻植物) EC ₅₀ (96H) 103,000 μg/L
2-ブロパノール	
魚毒性	: (ヒメダカ) LC ₅₀ > 100mg/L/96Hr
水生環境有害性 (急性・慢性)	: 区分外
残留性/分解性	: 微生物などによる分解性が良好と判断される物質である。
生態蓄積性	: データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法 (廃棄物の処理及び清掃に関する法律) を遵守し、適正な処理をするように依頼する。

容器：空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に廃棄物処理法、及び関係法規・法令を遵守して、適正な処理をするように依頼する。容器は、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報：IMDG の規則に従う。

航空規制情報：IATA の規則に従う。

国連分類：該当しない

国連番号：該当しない

国内規制

陸上規制情報：労働安全衛生法に定められている運送方法に従う。

海上規制情報：規制なし

航空規制情報：規制なし

輸送の特定の安全対策及び条件

: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 名称等を通知すべき有害物（法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9）
消防法	: 該当しない
毒物劇物取締法	: 該当しない
船舶安全法	: 該当しない
航空法	: 該当しない
化学物質管理促進法	: 該当しない
海洋汚染防止法	: 施行令別表第 1 有害液体物質（Y 類）

16. その他の情報

本製品安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂される事があります。また、SDS 中の注意事項は通常の取扱を対象にした物です。製品使用者が特殊な取扱をされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。また、当社は、SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証する物ではありません。

※危険、有害性の評価は必ずしも十分でありませぬので、取り扱いには十分注意をお願い致します。

参考文献

化学品安全管理データブック	化学工業日報社
化学大辞典	共立出版株式会社
化学品法令集	化学工業日報社
安全衛生情報センター	http://www.jaish.gr.jp/
製品評価技術基盤機構	http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html
